

今号の作業

キックスターターを確認する



今号では「キックスターターアーム」を提供する。このパーツはサウンド・ギミックと連動しており、セルモーターによる始動音とは異なるサウンドを響かせるスイッチになる。今号では、次号で行う取り付け工程に備え、ビス穴にタップを立てる作業となる。

今号のパーツ



- ①キックスターターアーム
- ②ビス(Bタイプ)×2
(※1本は予備)

用意するもの

・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)
・油性ペン

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

使用する道具

・+(プラス)ドライバー(1番)

あると便利な道具

・2.0mm中タップ&タップホルダー
・ラジオペンチ ・マスキングテープ

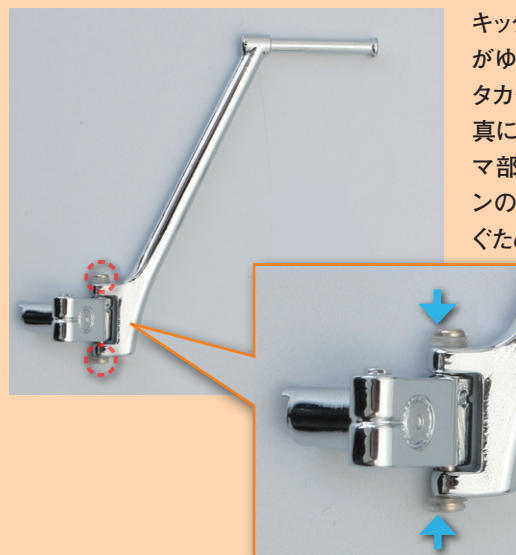
STEP

1

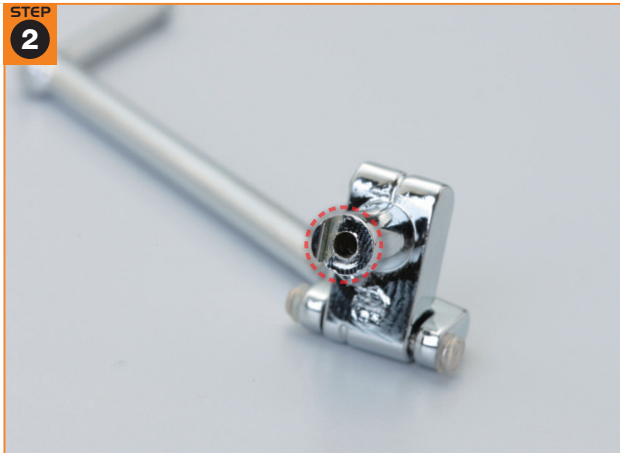


①キックスターターアームを写真のように持ち、アーム部分と付け根のジョイント部分がスムーズに動くことを確認する。

アームがゆるすぎる場合の対処法



キックスターターアームの取り付けがゆるく、パーツを傾げるだけでカタカタと動いてしまう場合には、写真に示した2カ所の金属ピンのアタマ部分を押し込んで調整する。ピンのアタマ部分に傷が付くのを防ぐため、ラジオペンチの先端にマスキングテープを巻き付け、2本の金属ピンのアタマを挟んで軽く締め込む。強く締め込むと動きが渋くなってしまいますので、“傾けても回転はしないが、軽く動く”程度に調整しよう。



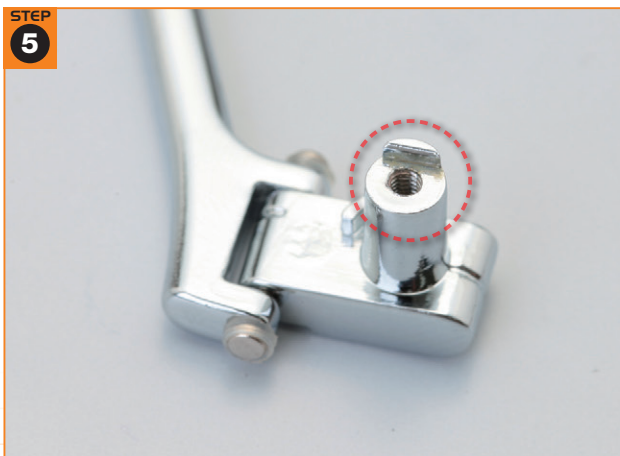
キックスターアームのジョイント部裏側には、取り付け用のポストが設けられている。その中心にはビス穴があるので、この穴に2.0mmのタップを立てる。



②ビス(Bタイプ)を用意し、ジョイント部裏側のビス穴へ真っすぐにセットする。

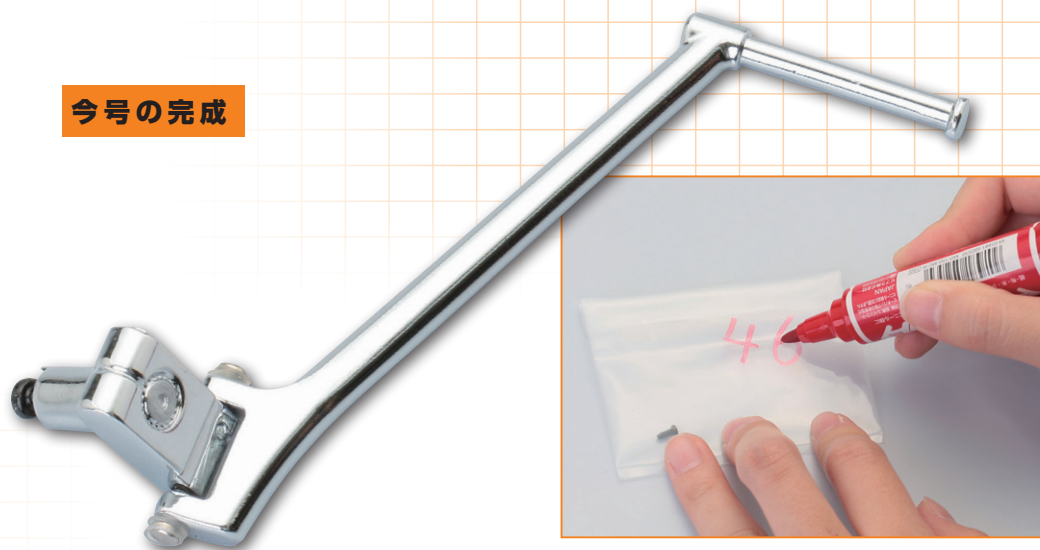


1番の+(プラス)ドライバーを用意し、Bタイプのビス全長の半分程度までゆっくりとねじ込む。その後ドライバーを左に回し、ビスを抜き取る。



タップを立て終えたジョイント部のビス穴。中に金属の削りカスが残っていると固定が不十分になるので、しっかりと払っておき、もう一度Bタイプのビスを軽くねじ込んでおく。こうしておくでビスの紛失を防げる。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。工程も少なく、簡単な作業だったが、これが次回の作業効率を大きく左右する。残った予備のビスは、念のため号数を記入したビニール袋に入れておくことをお勧めする。組み立てたパーツは次回の作業に備え、大切に保管しておこう。